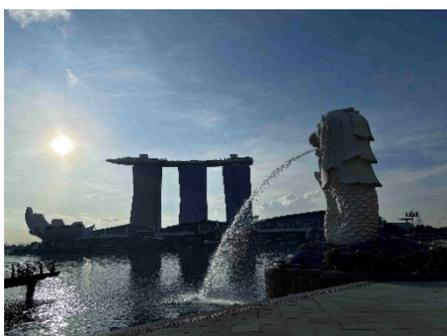


## World Congress of Abdominal Wall Hernia Surgery (WCHS), 2024 in Singapore 参加報告

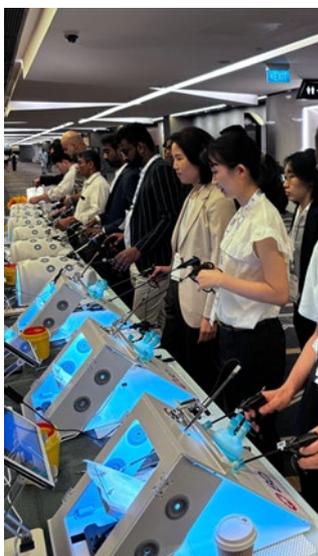
福島県立医科大学会津医療センター外科 添田暢俊

日本ヘルニア学会より奨学金を賜り、誠にありがとうございます。2024年10月10日～12日にシンガポールで開催された World Congress of Abdominal Wall Hernia Surgery (WCHS), 2024 に出席いたしましたので、ここに報告させていただきます。



まず、現地に赴く前の10月7～9日には、現地での pre-congress workshop には参加できなかったものの、「First Global Live Surgery Relay」として、世界各国の外科医によるさまざまなヘルニア手術動画 (IPOM Plus、eTEP、TAPP、ロボット手術など) を視聴し、活発なディスカッションにも触れることができました。これらは日本から YouTube 経由で視聴可能で、大変刺激的でした。

10月10日、約7時間の空路を経てシンガポールに到着しました。街は清潔で整然としており、非常に便利な国という印象を受けました。特にトイレの清潔さが印象的で、電車や買い物、食事でもスマホ決済 (Apple Pay) で完結することができ、利便性の高さを感じました。なお、観光では学会場近くのマーライオンを観ることができました。



学会は都市部中心に位置する Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre で開催され、規模としては日本ヘルニア学会学術集会と同程度に感じられました。会場では、「HERNIA OLYMPICS」の一環として TAPP Game が開催されており、10名同時に腹膜切開、ヘルニア嚢結紮、メッシュ留置、タッキング、腹膜閉鎖といった一連の手技を正確かつ迅速に行う競技が行われていました。私も参加しましたが、実際の TAPP 手術よりも難しく感じる部分もあり、大変興味深いイベントでした。このようなイベントは今後、日本ヘルニア学会でもぜひ取り入れられると良いと感じました。

企業展示ブースでは、日本ではまだ承認されていない器具も多く展示されていました。その中でも特に、タッカーの代替品としての接着剤 (グルー) は非常に有用であると感じました。

私の発表はポスターセッションにおけるプレゼンテーションでした。同セッションには約15名が発表されていましたが、日本人の発表者が多かったため、緊張することなく発表を終えることができました。



その夜には、TAR 手術で著名な Novisky 先生の講演会にも参加させていただきました。日本ヘルニア学会の先生方やアジアのヘルニア学会の先生方との貴重な交流の機会を得て、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、個人的に Novisky 先生とツーショット写真を撮らせていただき、大変感動いたしました。

最後になりますが、この度 APHS Scholarship に選出いただき、貴重な経験を積むことができたことに深く感謝申し上げます。今回の学会で得た知見を今後の国内外の学会発表に活かし、微力ながら尽力してまいりたいと思います。